

本セッションは基礎セミナーとして3名の演者にご講演頂いた。

まず、産業医科大学病院の大石芳貴氏に「IPを用いたビーム幅測定」というテーマで講演をしていただいた。CTのビーム幅測定に関して、CRのIPを用いたデータの収集方法やImage Jを用いた解析の手法など明瞭に解説していただいた。

次に九州大学病院の近藤雅俊氏に「異なるCT装置における画質の違いとその対応法の提案」というテーマで講演をしていただいた。異なるメーカーのCT装置で撮影された画像は画質が同一ではないため、患者の経過観察をおこなう場合など注意を要する場合がある。装置の構造や再構成方法が異なるメーカー間の画質を合わせることは一般的には非常に困難であるが、今回はIQ-MAPという新たな指標を用いることで簡便な形の臨床画像評価が可能となるとの報告であった。

最後に九州医療センターの天川一利氏に「薬物動態解析ソフトを用いた造影CT検査シミュレーション」というテーマでご講演いただいた。生理学的モデルを用いたシミュレーション方法に関して、Polymathソフトを用いて分かりやすく解説いただいた。血流動態の予測を行うことで、造影法や造影タイミングなど臨床応用も可能と思われる。

今回のテーマに関して、3名の演者の方々はだれもが理解できるよう明瞭に講演いただき、とても充実したセッションであったと感じている。